京都のINGをCHECK IT OUT!!

口コミ情報カタログ

編集長の今月の

必言隻語

乾杯、ナオや、ナオや、イエーイ！

うちのまかない

野菜と豚肉の中華炒め煮（手前左）
葉ノ花の茎の天ぷら・辛子マヨネーズ味
茹でた法連草の茎と焼いた椎茸石づきのお浸し
鯛のアラで取った赤だし・蕪の皮と葱入り
白御飯

店主の渡辺康史さん。「まかない見せるなんて恥ずかしいわ〜」と言いながら、自ら一口食べた感想は「ウーン、美味しいわ、コレ」

●天ゆう
京都市左京区吉田牛ノ宮町25
☎075・752・6666
営17:00〜23:00／水休

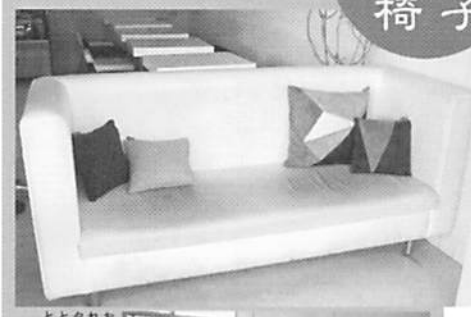
和食は元来ムダなし料理 食材の始末はお手の物！

このメニューを見て、「アレ？天ゆうっぽくないな」と思った、アナタはかなりの天ゆう通ですな。そう、マヨネーズ・中華スープ・そして豚肉と来りゃ、和風で魚介中心のウチではほとんど出てこない食材でしょ？　ところがまかないに限り、ケチャップやステーキの洋モノもレギュラー扱いで登場。実はウチではまかない専用の食材や調味料を別に仕入れて、お客さん用食材の「捨て所」とうまくミックスさせた「家庭風リサイクル料理」を日々アルバイト君たちにご提供。今日のメニューの茎とか石づきみたいに、普通なら捨てる所を工夫しておいしく食べる方法は、バイト君たちの暮らしにも役に立つしね。もちろん常連さんにも話のついでで出したりするから、カウンター越しに話しかけてみて。意外な食べ方、教えたげるで。

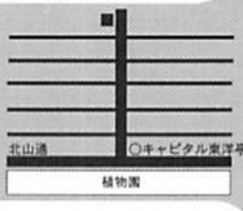
これ最近、CFスタッフ内で流行ってる乾杯音頭。先頃弊社の営業に異動した絵本画家が使う擬音語の席でも、これを機で狂喜乱舞連呼した、もちろんリズムはBGRのサタデーナイトだが、TOKIO的ならワイルドに、広末的ならプリっ子に表現して欲しい。留意点は、西文字名ならちゃん付け呼称、社名なら省略呼称で出来るだけ3文字変換に！　業界五本ノ矢なら、今は「っちだ」。

Cafe 椅子図鑑

Cafe Salon
カフェ サロン



京都市北区上賀茂高縄手町75
クルーセ神山1F
☎075・702・9816
営12:00〜24:00
（金土祝日前〜翌2:00）／無休



白×白の演出が生む居心地よしの時空間

白い革で身を固めたソファは、ここ「カフェサロン」を運営するデザイン事務所TPOのオリジナル。店を立ち上げる時、イメージは「白」なカフェを作ろうと、壁はもちろんソファも真っ白なものをオーダー。ゆったり座りくつろぐためのものという、ソファ本来の意義を追求して機能的なデザインに。高さのある背もたれと肘掛がソファの三辺を囲み、横にした垂れかかっても、後ろにもたれきってもしっかり支えてくれる。一度そこに身を沈め、その心地よさを知ってしまえば腰を上げるのは至難の業。この極楽を我が家でも、と購入希望者が続出。肘掛の目隠し効果で、ソファ席指名のカップルも頻出とか。

お客さんはもちろんスタッフにも愛されるこのソファは、フィリップ・スタルクデザインのチェア「ロードヨー」とスタッフの名を掛けて「ロード洋子」と呼ばれている

恋の場外乱闘

【前回までのあらすじ】
30歳を目前に、どんなオキテ破りを使ってもカレシを作る！と誓ったライターの私だが…。
合コン。その響きには、切なく苦しい思い出ばかりが甦る。学生時代から今日まで、トータル30回はやってきた。だがそのいずれもが、待合せの段階で敵前逃亡したくなるような「え、それどこの服？」みたいな相手ばっかし。

実録！コンパ風雲録・前編

だが、結婚に成功した私の友人には、「出会いはコンパ」って人が少なからずいるのよねぇ。ん〜、久々にやってみっぺか。ってことでコンパ常勝とウワサのフェロモン紳御、T子さんに今回1席設けてもらったワケだ。因みにお相手は建築カンケー。スゴイよ、達人！

「いやー、どもども」と待ち人、来たる。ルックスは、ん〜、並っすね。でもヘンな皮ジャンとかツータックのGパン、履いてないだけずっとイイ。でも3人？5人のはずじゃ…。「あ、あとの2人は遅れて来るって」。まぁ、コンパにはありがちだわね。

お相手の内ワケはT子さんの友ダチの建築カンケーKさん（ただし今は無職らしい。どういうことだっ！）と会社の元後輩N君（なんと23歳、弟と同い年）、Kさんのツレでコンピューター関係のSさん。そしてこの中で女子の目をクギづけにしたのは、23歳のN君だ。

席に着いた途端トイレに立ち、15分後にやっと帰ってきたら、異常に顔が汗まみれ…。個室で何してたの？と思いきや、掛かってきた電話に、「ゴメン！オレまだ乾杯してへんし、切るわ！ガチャッ」。ふ、不思議ちゃんだ！　だが本当の彼の素顔は後ほど明らかになる…。

これはポストカード？フリペ？こんなの見たことある？ダンケー新聞

Kyoto Minima Magazine

ダンケー新聞の「ダンケー」とはドイツ語でありがとう、の意。手にとってくれて感謝、との意味をこめて付けたのだとか

一見4枚一組のポストカード。でもひっくり返せばエッセイ。こんなフリペがダンケー新聞。「ポストカードなら読んだ後も飾れるでしょ」と言うメンバーは美大OGと現役生。そんな彼らのフリペ、エッセイは暮らしのささいなことをコンセプトに、今回は旅先での発見がお題。そのコンセプトをより強く伝えてるのが表のポストカード。写真やイラストは、カラーでリキ入ってマス。でもこれってフリペなの？　それともポストカード？　彼らのほんとのトコロは見た目メインの「ビジュアルで勝負！（でもエッセイも見てみて）」。いっそのことポストカードとしてマイルームをデコレート、なんて方がダンケー的には正しかったりして!?

実は彼ら、ASN（アートスタッフネットワーク）というボランティア団体のスタッフ繋がりでもあるのだ。

平年に1回発行（次回は6月もしくは7月頃発刊予定）
●問い合わせ先　ダンケー新聞代表　cozupy@muse.ocn.ne.jp
●配付先　京都、大阪のカフェやギャラリーなどで配布中

パラっと4コマ その4

「ごめ〜ん、ソコ移転してたわ」とアッサリ言われた。
♪明日がある、明日がある、明日があるさ〜♪